

氏名： 浅田 徹 (ASADA Toru)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 准教授  
学位： 文学修士  
専門分野： 日本文学  
E-mail： asada.toru@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

和歌／歌学史／国語学史／日本中世文学／連歌

#### ◆主要業績

- ・蔵山集解題補考 ―撰集の基盤について― (上方文藝研究会『上方文藝研究』5号、2008・6)
- ・藤原為家の毎日一首について (下) ―その歌風― (お茶の水女子大学国語国文学会『国文』109号、2008・7)
- ・『冷泉家時雨亭叢書 75 中世私家集十一』 (朝日新聞社) 解題 (『詠二十首和歌』『西国紀行』の部分、井上宗雄と共著)
- ・「源氏物語と和歌」研究会編『源氏作例秘訣―源氏物語享受歌集成―』 (青簡舎、2008・6刊) の編者代表・企画・監修・解題執筆。
- ・川平ひとし『中世和歌テキスト論―一定家へのまなざし―』 (笠間書院、2008・5刊) の編纂 (編集委員会の1名として) および所収文献解説の執筆。同書は遺稿集。

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

江戸時代後期の上方歌壇の構造について、「難蔵山集」を通して分析した。  
室町時代～江戸時代前期における、源氏物語をモチーフにした和歌の集成書について、その成立や編纂態度、伝本等につき検討した。

中世歌道史上重要な位置にある藤原為家の作品につき、その特異な作品のあり方を分析した。

冷泉家所蔵の重要文化財群の影印出版に際して、引き続き解題を執筆した。

平安時代書道史上の「元永本古今集」(国宝)の意義を、平仮名／漢字による国語表記史学の知見と併せて考察し、国語学者の研究会で口頭発表した (刊行は翌年度予定)。

科研費による室町時代の古今伝授研究 (堯恵の研究) を継続し、2009年中に翻刻すべき文献の原本調査などを行った。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

「日本語文化概論」では、「心」というテーマの下に、古典文学からマンガ、J - ポップに至る素材を駆使して講義した。

「日本古典文学論基礎演習」では、古典文学を研究するための諸方法について実習を指導した。

「日本古典文学史論」では、中世文学の諸相について、「日本古典文学論特殊研究」では中世文学の中から一見すると奇妙な形態に見える諸作品について講義した。

「日本中世文学特論」では中世に作られた長歌について、その意義と実際を演習を通して考察した。

「日本語文化特論」では、本居宣長の諸著作を解題し、文学／語学にまたがる学究の思考について講義した。他に、高大連携のために附属高校での授業を3回行った。

## ◆研究計画

平安～江戸時代の和歌文学・歌学史についての研究を継続し、より興味深い史的事象を発掘していきたい。科研によって支援を受けた、国語学との学際領域の研究についても、本年度は表記研究と書道史・和歌史との連絡による新たな視角を提示しえたと考えるが、さらに音韻史・アクセント史の知見と歌学史との連絡による新たな研究方法を提示していきたいし、歌謡文学の楽譜資料の新たな分析を提案できればと考えている。国語学・音楽史学との共同研究は当然考えられる。